

バイオプラスチック導入ロードマップに係る論点

【1. バイオマスプラスチック・生分解性プラスチック導入の方向性の整理】

プラスチック資源循環戦略において、導入の方向性の整理の観点として、

- ・環境・エシカル的側面
- ・生分解性プラスチックの分解機能の評価を通じた適切な発揮場面
- ・リサイクル調和性 等

が記載されているところ、どのように整理・分析すべきか。また、他に整理すべき観点はあるか。

【2. バイオマスプラスチック・生分解性プラスチック導入に向けた施策】

プラスチック資源循環戦略において、導入に向けた施策として、

- ・低コスト化・生分解性などの高機能化
- ・焼却・分解が求められる場面等への適切な導入支援（可燃ごみ用指定収集袋などの燃やさざるを得ないプラスチックへの利用等）
- ・グリーン購入法等に基づく国・地方自治体による率先的な公共調達
- ・リサイクル制度に基づく利用インセンティブ措置
- ・マッチング支援
- ・低炭素製品としての認証・見える化
- ・消費者への普及促進 等

が記載されているところ、どのように具体化すべきか。また、直近の情勢の変化も踏まえ、他に実施すべき施策にはどのようなものがあるか。

【3. 国民各界各層の理解と連携協働を促進するロードマップ】

プラスチック資源循環戦略において、

- ・導入可能性を高めつつ、国民各界各層の理解と連携協働の促進により、2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限（約200万トン）導入するよう目指します。

と記載されているところ、国民各界各層の理解と連携協働が促進され、投資やイノベーションがより促進されるようなロードマップとするために留意すべき点は何か。